

令和5年11月22日

安平町史編さん委員会基本方針

1. 編さんにあたっての考え方

(1) 町史編さんの目的

令和8年3月に合併20周年を迎える安平町。この町史は、明治22年のフモンケ入地・開墾から始まり、昭和の分村、平成の合併といった、今の「安平町」に至るまで全ての町史を編さんすることにより、まち全体の歴史を振り返ることにより、町民のまちに対する理解と郷土愛を育み、将来のまちづくりに繋げることを目的とする事業である。

そして、旧町村・地域に関する人々の諸活動を記録した地域史料を次世代へ引き継いでいくため、歴史的公文書や古文書、古写真、考古資料等を含む文化財、民俗、自然等の資料調査・収集・整理を行い、適正な保存に努め、まちの発展に寄与することを期待するとともに、安平町まちづくり基本条例の基本的な考え方である「町民参画と協働のまちづくり」に従い、行政だけのものではない、町民自身の町史発刊を目指す。

(2) 編さんとする対象期間と視点

昭和55年以降を基準とした、約45年分の歴史書とする。

前史（旧早来町、旧追分町）の発刊状況は以下のとおり

冊子	発刊	年表	ページ数
追分町史	昭和61年8月	昭和60年12月	1509
早来町史	昭和48年3月	昭和44年12月	1707
早来町史（続刊）	平成10年2月	平成元年12月	1897

編さんの視点や対応の必要性については以下のとおりである。

- ①社会の動きとの関連の中で、まちでの動き、行政、産業などの変化の状況を見る
- ②その期間におけるキーワード（例：新自由主義、バブル、官民格差、民営化、貿易自由化、少子高齢化、限界集落）や課題を捉え、人々の考えや動きと客観的な資料と両面から表現する。
- ③地域にとっての大きな影響があった重大事象（例：国鉄民営化、減反・牛肉自由化、町村合併、少子化と定住、胆振東部地震、まちの復興）を考慮する。
- ④我々の想定を超えた何かを探し出す力
- ⑤資料の濃淡を人の記憶などで補充する

2. 目次構成

別紙のとおり